

報 告 書

(委 員 会 名) 総務民生常任委員会

(視 察 日) 令和7年10月23日 (木)

(視察先都市名) 石川県白山市

(視 察 項 目) ペットの災害対策について

(内 容) 報告者 橋本彬穂

白山市では、能登半島地震の際に最大震度5弱を観測し、その後も震度1～3の余震が断続的に発生した。発生4時間後には50か所の避難所に5,291人が避難したが、約3時間後には1,449人まで減少し、翌2日14時10分には全員が帰宅して避難所を閉鎖した。また、輪島市の孤立集落から最大113人を広域避難者として受け入れた。白山市には二次避難所98か所、指定緊急避難所47か所があり、二次避難所では全てペットの「同行避難」が可能だが、「同伴避難（同室避難）」を認めている避難所は白山市にも石川県内にも存在しなかった。

輪島市からの避難者のうち、犬3組、猫2組の計5組が到着したが、建物内には入れないため駐輪場での対応となり、冬場の寒さを心配する声が多く寄せられた。このため、東日本大震災で福島県の避難者を受け入れた実績のある市内の民間宿泊施設に協力を依頼し、犬の受け入れを行った。猫は体調面の問題から、保健所を通じて市内動物病院で預かってもらった。また、孤立地域から二次避難所へ移動する際、猫を自宅に残してきた避難者がいたことが問題視され、これをきっかけに石川県も本格的にペット避難の見直しに取り組み始めた。

県は1.5次避難所にペット用トレーラーハウスを設置し、珠洲市や輪島市などにもペットと同室で避難できる空間を新たに整備した。

白山市では、令和6年9月19日に学校法人国際ビジネス学院と

「ペット同伴避難」に関する協定を締結した。同学院からは地震前より同室避難への協力意向が示されており、協議が進んでいたものの、協定締結前に地震が発生してしまった。

地震後、避難者から同室避難を求める声が多く寄せられたことから、市は協定締結を急ぎ9月の合意に至った。学校内で避難所として使用できるのは2か所で、受け入れ可能なペットは主に犬と猫である。犬は中型犬まで同室避難が可能で、大型犬はシェルターで預かる形となる（要相談）。猫はケージでの滞在が難しいと判断され別室で預かる。犬猫以外のペットは個別に相談となる。避難用品は原則として持参が必要だが、緊急時は学校側から提供がある。協定に基づき今年1月には避難訓練が実施されたが、実際の地震時にはすぐに学校へ避難するのではなく、まず一次避難所へ案内し、避難が長期化すると判断された段階で市が学校へ開設を依頼し移動してもらう流れとなる。訓練に参加した犬は学校で飼育されているため大人しく行動できたが、実際の避難ではしつけが十分でないケースも想定されることから、平時からのしつけが重要であると確認された。学生の訓練参加は防災教育としても効果が高く、防災意識の向上につながったという。このペット避難訓練は県内でも例がなく、非常に注目度が高かった。

委員所感

< 豊田 >

能登半島地震時における白山市の災害対応の中で、輪島市の孤立集落からの広域避難者受け入れ時に課題となったペット同伴避難の課題解決に向けて実施した、白山市の国際ビジネス学院との協定締結と避難所開設訓練等の取り組みは大いに参考になったが、同時にペット同伴避難の難しさ、課題等についても再認識することができた。

<高城>

ペットも家族の一員と考える飼育世帯と、非飼育世帯の認識の擦り合わせをすることは大変困難な作業であると再認識し、さらに保健衛生の観点が付加すると、問題は更に複雑化すると感じた。現状、飼い主が責任を持ってある程度の備蓄をしておくことが求められるし、万が一の際はどうかについて、行政頼みにし過ぎることなく、居住についてもある程度考え、結論付けておく必要はあると感じた。

<浅野>

災害時の避難所におけるペット同伴避難の難しさを、市内の国際ビジネス学院と協定を結び同伴避難所として克服し、避難訓練等を実施して万が一被災された場合のペット共同生活について日々試行錯誤している事が分かりました。

<三田村>

事前にペット防災について備えが整っていたわけではないとのことで、迅速に動きを進めていることを評価する。ペット防災にどこまで予算と人手を掛けられるかは悩ましいところだが、私を含めペットに並々ならぬ思いを寄せる人は多いものと思われ、ともすればペット防災が行き届いているかどうかは移住自治体選びにおいて考慮されることかもしれない。

<橋本>

ペット同行避難は敦賀市でも認められているが、同伴は認められていない。同伴するには多くの課題があることは認識していたつもりだったが、白山市さんのお話を聞いて、いつ起こるか分からない地震に対応できるような設備を整えないといけないと強く感じた。しかし、同伴避難できる場所の確保や協力者・理解者な

ど様々な課題が多くあると実感した。今後敦賀市でも、同伴避難ができる場所を確保できるようにしっかりと調査し取り組んでいきたい。

<大塚>

ペットとの避難は、多くの飼い主さんにとって大切な問題です。災害時、人と同様にペットの命を守ることは非常に重要ですが、現実には様々な課題が存在することについて学ぶ事ができました。

<馬淵>

ペットとの避難を考える際に、地震災害以外の避難や被害が生じる前の自主避難や自宅避難、そして住居が被災し、長期間に避難生活を送らねばならない避難生活について、具体的にシミュレーションすることで何が必要か、どのような対策が有効かを考え備えていくことが大切だと思いました。